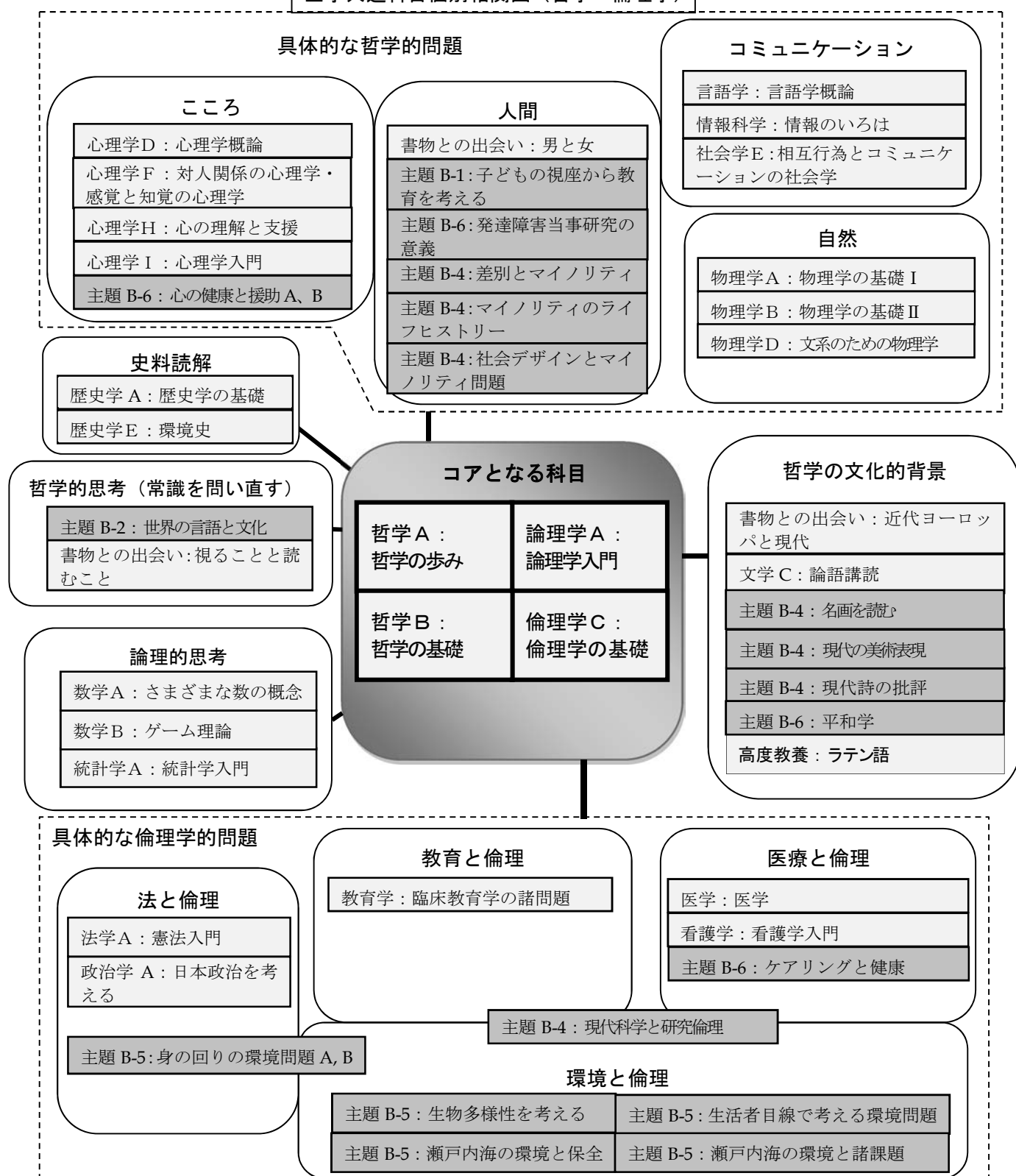
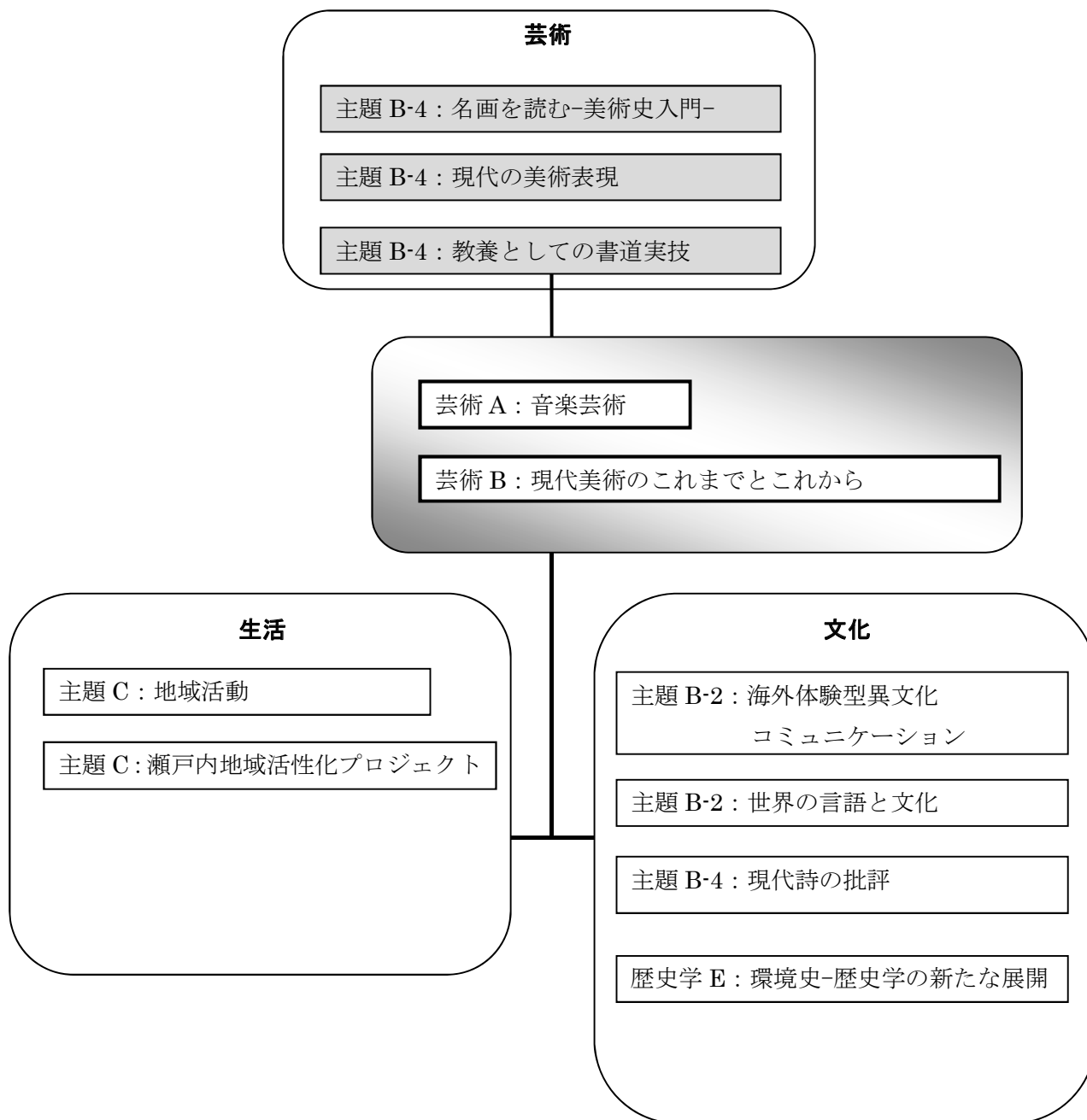


全学共通科目個別相関図（哲学・倫理学）



哲学・倫理学科領域の概要：一般に哲学は、厳密な論理をつかって、「人間とはなにか」、「世界とはなにか」、「善とはなにか」といった原理的な問題について探究する学問、として理解されています。コアとなる科目のうち「哲学A」、「哲学B」では哲学の歴史や哲学的な思考法に焦点を絞って授業が進められます。その他、「人間関係における規範」を取り扱う哲学の一分野、「倫理学」については、別に授業が開講されますし（「倫理学C」）、哲学の重要なツールである「論理」については、「論理学A」で基礎から学ぶことができます。コアとなる科目では、基礎的な部分に取り上げられますが、応用編ともいえる具体的な問題や、方法論の応用法、文化的な背景については、上記の関連科目で学修できます。

全学共通科目個別相関図（芸術）



芸術分野の概要：「芸術とは何か？」 人はパンだけでは生きてはいけません。思考力と感性力を持つ人間は、「生きている」実感を得るために、具象・抽象を問わず、心的・内的な表現活動をしてきました。その背景には、様々な価値観によって育まれてきた〈文化〉が存在します。「異文化コミュニケーション」や「言葉の世界」、更には「観光」などは、言語を媒介とし、生活に密着した大切な文化活動（心の活動）です。ブルクハルトは、人類の歴史そのものを〈芸術作品〉と称しているほどですが、表現活動の中でも特に、磨き上げられた技術と研ぎ澄まされた精神によって生み出された形のある〈芸術〉作品は、時代を超えてその輝きを増し加え、今も私たちに強いメッセージを発信続けています。その二つの重要な特性の理解を深めることによって、一人一人の問題である「生きるとは何か？」への手がかりが導き出されていくものと考えます。

全学共通科目個別相関図（心理学）

人間とは、心とは、自己と他者

哲学 A：哲学の歩み

倫理学 C：倫理学の基礎

論理学 A：論理学入門

心と身体

医学・看護学

医学：医学

看護学：看護学入門

主題 B-4：こころとからだの科学

主題 B-6：心と体の健康

生物学

生物学 B：基礎生物学

心理学 D：心理学概論

心理学 F：対人関係の心理学・
感覚と知覚の心理学

心理学 H：心の理解と支援

心理学 I：心理学入門

主題 B-6：心の健康と援助
-臨床心理学の観点から- A, B

研究の方法

統計学 A：統計学入門

コミュニケーション

言語学：言語学概論

主題 B-2：海外体験型
異文化コミュニケーション

心と社会

教育学：臨床教育学の諸問題

社会学 E：相互行為とコミュニケーションの社会学

社会学 G：コミュニティと住環境

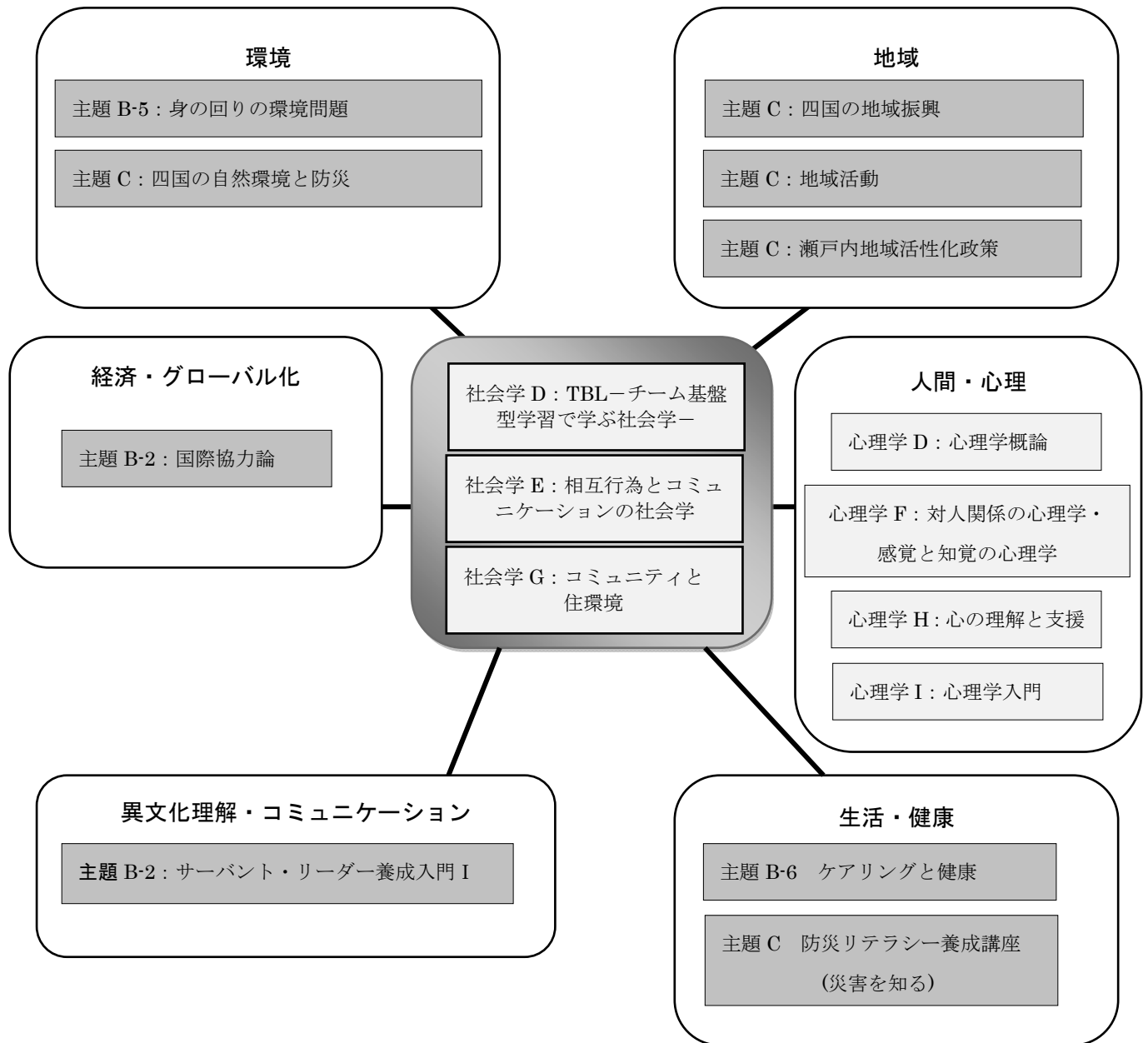
主題 B-1：子どもの視座から教育を考える

主題 B-3：自己形成と他者をめぐる問題

主題 B-6：心と身体の関係と医療

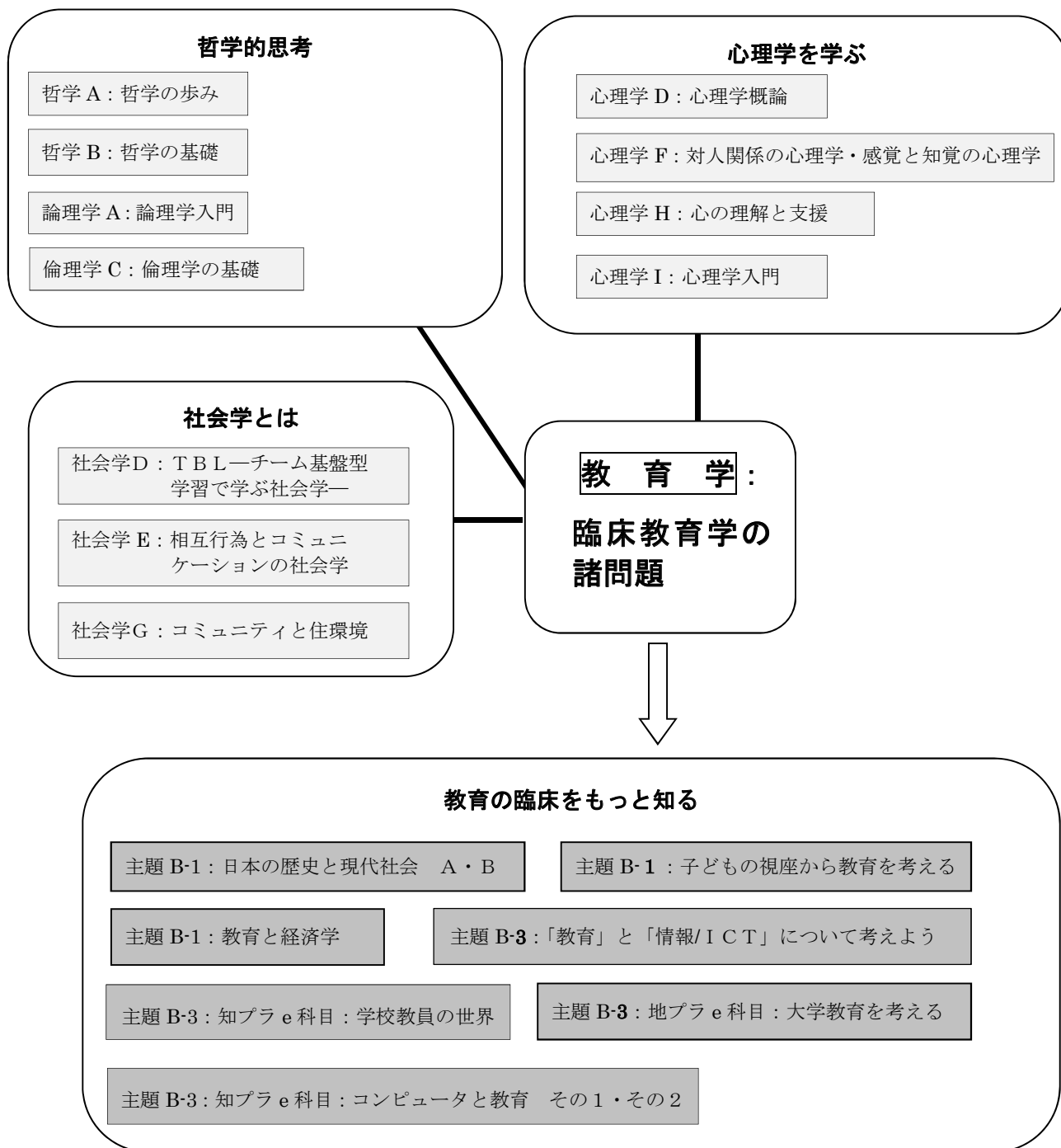
心理学分野の概要：心理学はヒトの心の働きや行動について、実証的に明らかにしようとする学問です。心理学には、教育心理学、発達心理学、社会心理学、認知心理学、臨床心理学など様々な領域があります。上記のコア科目のうち、「心理学D」、「心理学I」では、心理学の基礎を幅広く学習することができます。また、「心理学F」の前半では対人関係の心理学について、後半では感覚と知覚の心理学について学びます。「心理学H」では臨床心理学の基礎を、主題 B-6「心の健康と援助」では心の健康について学びます。心理学や心の働きと関連の深い学問領域やテーマについては、上記の関連科目で学習することができます。

全学共通科目個別相関図（社会学）



社会学分野の概要：社会学の研究対象は多様であるため、捉えどころのない（「何でもあり」？）学問との印象を与えがちです。3つ用意されているコア科目でも授業テーマはそれぞれ別々です。しかしテーマは何であれ、社会学に独自の「ものの見方」といったものがあります。というか、社会学は研究の対象（テーマ）ではなく、そのような「ものの見方」に特徴がある学問なのです。それは、現代社会を形作るマクロな制度的構造や文化的価値体系をローカルな日常生活との関連において捉え直そうとする視点です。コア科目ではそのような「社会的想像力」の習得を目指すことになります。社会学に関係する科目は多岐にわたりますが、その代表的なものを上に掲げました。これらの科目群はいずれも現代の人間・社会を考える上で重要な意味をもつものであり、社会的な発想を応用するための貴重な素材となるものです。

全学共通科目個別相関図（教育学）



教育学分野の概要：教育学は、わたしたちの教育経験の反省に根ざした学問です。この授業では、いくつかの臨床教育上の「問題」やトピックスを取り上げながら、学校における教師と子どもの人間関係や教育的援助のあり方について、皆さんと一緒に考えていきます。「教育」を理解するためには、教育学以外に、哲学、心理学、社会学など様々な学問が補助科学として理解を促すはずで、もちろん主題科目のなかに「教育」そのものを主題にした授業もあります。是非そちらも受講してみてください。

全学共通科目個別相関図（歴史学）

社会・経済・政治・法・文化

法学 A イ・ロ：憲法入門

主題 B-2：モラエスの徳島—グローバリズムと異邦人—

主題 B-1：日本の歴史と現代社会

主題 C：香川の文化と歴史 1/2

主題 C：四国の歴史と文化 1/2

主題 B-1：日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920

主題 B-4：ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり

自然・情報

物理学 D：文系のための物理学

主題 B-5：瀬戸内海的环境と保全

主題 C：四国の自然環境と防災

歴史学 A：歴史学の基礎

歴史学 C：現代日本史入門

歴史学 F：環境史—歴史学の新たな展開

思想・芸術・文化

書物との出会い：
近代ヨーロッパと現代

哲学 A：哲学の歩み

哲学 B：哲学の基礎

倫理学 C：倫理学の基礎

芸術 B：現代芸術のこれまでとこれから

主題 B-4：現代の美術表現

現代の諸問題

書物との出会い：男と女

社会学 G：コミュニティと住環境

法学 A イ・ロ：憲法入門

政治学 A：日本政治を考える

主題 B-2：国際協力論 A・B

主題 B-2：グローバル時代の法と国際人権

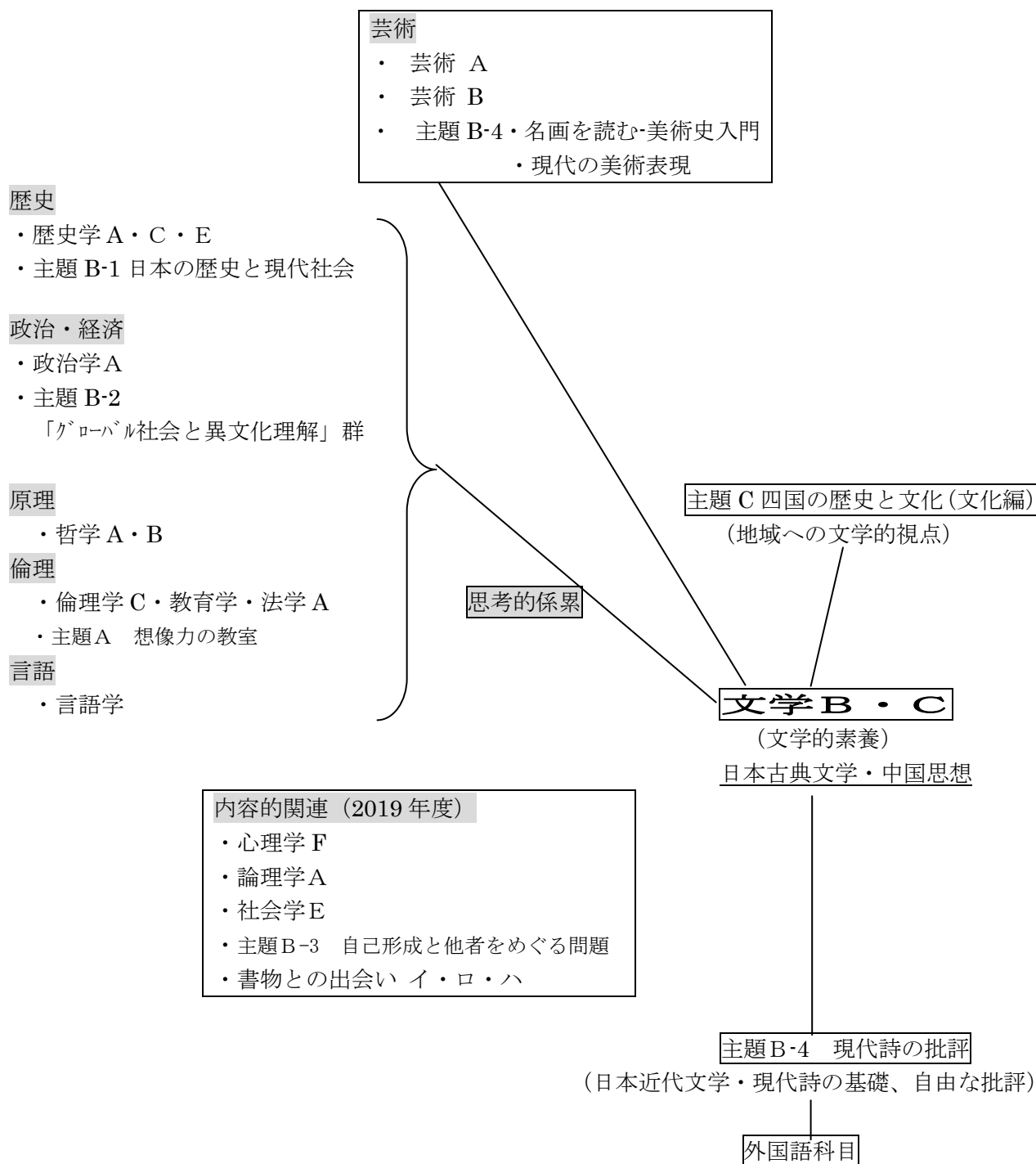
主題 B-4：こころとからだの科学

主題 B-6：心と体の健康

主題 C：四国の地域振興 1/2

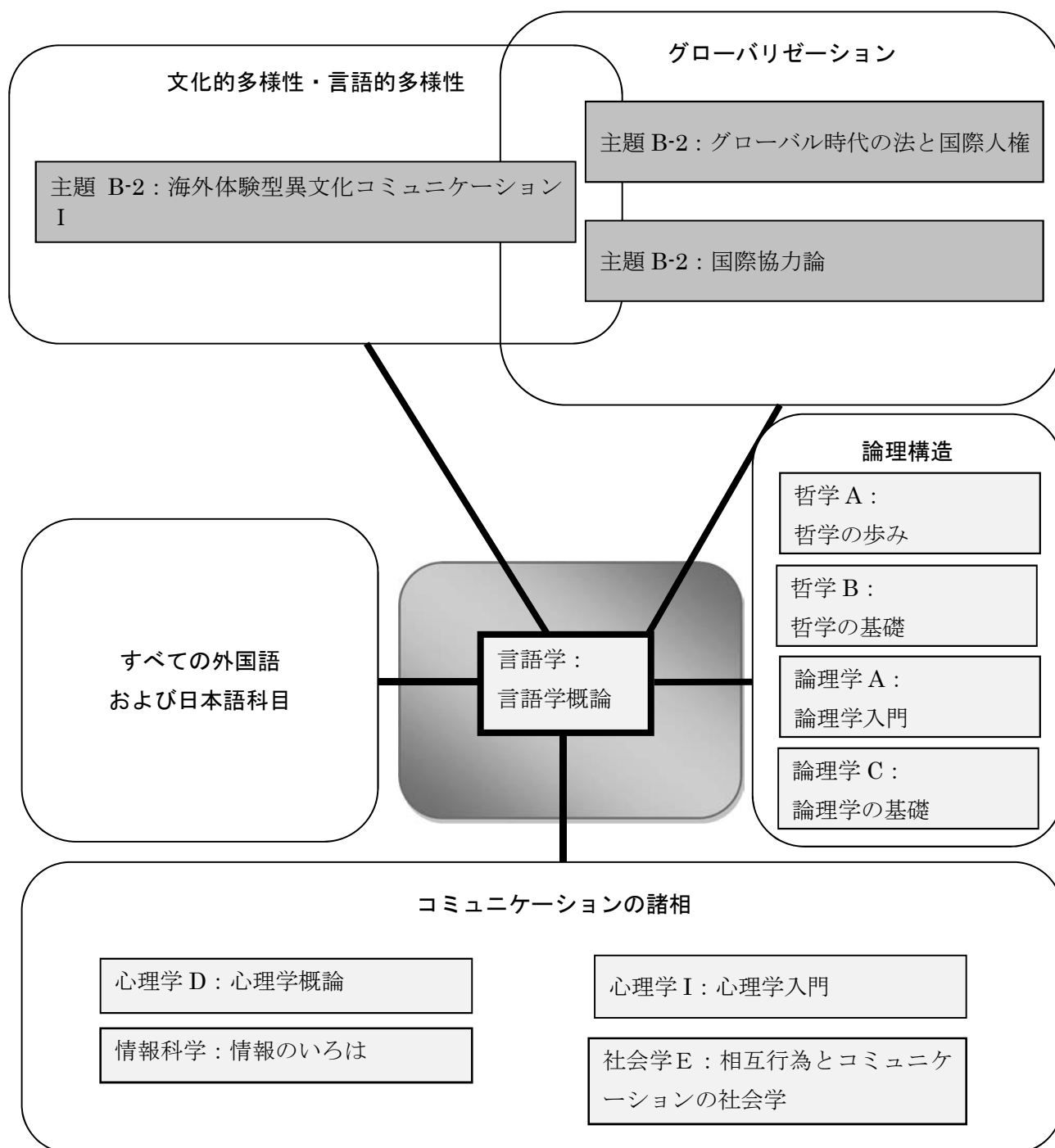
歴史学分野の概要：歴史学は史料に基づき過去を再構成する学問です。歴史叙述としては、古代ギリシアや古代中国から存在しますが、厳密な史料批判に基づく学問としては19世紀に成立しました。その時の史料の中心は政治的文書でした。現在、史料は絵画資料や映像などを含んで多岐に及んでいます。それら残された史料の批判的検討を経ていかに過去を再構成するかが重要です。コア科目では具体的な歴史的事象に即して、史料の特徴や歴史的なものの見方、歴史的研究法を学びます。この相関図は二つのことを示しています。まず一つは、歴史の対象が及んでいる範囲です。また、歴史的思考は単に過去を懐古的趣味的に振り返るのではなく、現代への関心と結びついているので、現在の関心がいかに歴史的思考と結びつくかを比較的好く示している講義群をあげています。各自の関心に従ってさらに学びを深めたり、他の学問とどのように関わっているかを知る一つの道しるべとして相関図を利用して下さい。

全学共通科目個別相関図（文学）



文学分野の概要：そもそも人間の営み得る「知」が、この紙一枚に図式化できてしまう程度のものならば、それは非常に退屈なものであろう。試みに「文学」を手元の漢和辞典で引くと、第一義に「学問、学芸」とある（角川『新字源』）。すなわち、元来「文学」という漢語の意味も、あらゆる人間の知的な営みを指し、それは総体的なものであって、およそ簡明に図式化できるものなどではない。実際、「文学」に関心を持つならば、上図の他にも関心を向けるべき分野が多くあるように思われる。学生諸君には、上図には縛られない、積極的な他分野の履修を勧める。そうした他分野の知識が、「文学」理解の基礎となり、また逆に「文学」の理解が、他分野の理解の基礎にもなるはずである。そうした相関性の中で、柔軟かつ未熟な自己の「知」を体系化する努力を積み重ねることこそが求められている事柄である。

全学共通科目個別相関図（言語学）



言語学分野の概要：言語学は、言うまでもなく言語のことを研究する学問領域です。そして、およそ人文社会科学で言語に関わりのないものはないですから、文科系のあらゆる学問分野と接合面を持ちます。また言語は、生物種としてのヒトだけが有する一種の能力でもありますから、脳科学や遺伝子学、また情報科学や認知科学などの理系分野とも深い関わり合いがあります。こうなると、言語学と関連性を有する学問分野は枚挙に暇がありません。その意味で上図は、「言語学概論」で扱う内容と全学共通科目のラインナップを見比べて、とくに関わりの深い科目にしばった相関図です。「言語学概論」では、とりわけ世界の言語の多様性に言及しますので、主題 B-2 の各科目とは相関的な関わりが強くあります。もちろん、初修既修を問わずすべての語学系科目とも関わります。

全学共通科目個別相関図（法学）

政治・経済・社会

政治

政治学 A：日本政治を考える

経済

経済学 B：マクロ経済学入門

経営学：経営財務の基礎

主題 B-1：戦後の日本経済

主題 B-1：福祉国家と地方財政

主題 B-1：少子高齢化と経済学

主題 B-1：教育と経済学

主題 B-3：消費者行動とマーケティング・コミュニケーション

社会

社会学 E：相互行為とコミュニケーションの社会学

社会学 G：コミュニティと住環境

主題 B-4：AI と法

主題 B-4：社会デザインとマイノリティ問題

主題 B-5：身の回りの環境問題

主題 B-6：健康と法

主題 B-6：平和学

主題 B-6：生命保険を考える

歴史

書物との出会いⅡ：近代ヨーロッパと現代

歴史学 A：歴史学の基礎

歴史学 C：現代日本史入門

歴史学 E：環境史—歴史学の新たな展開

主題 B-1：日本の歴史と現代社会

主題 B-1：オリンピックの歴史と文化

国際社会

地理学 A：都市学入門

主題 B-2：グローバル時代の法と国際人権

主題 B-2：国際協力論

主題 B-2：世界の言語と文化

法学 A(イ)

法学 A(ロ)

法学 B

哲学・倫理学・論理的思考

哲学 A：哲学の歩み

哲学 B：哲学の基礎

論理学 A：論理学入門

倫理学 C：倫理学の基礎

数学 B：ゲーム理論

書物との出会い：視ることと読むこと

コミュニケーション

書物との出会い：男と女

言語学：言語学概論

心理学 D：心理学概論

心理学 F：対人関係の心理学・感覚と知覚の心理学

心理学 I：心理学入門

心理学 H：心の理解と支援

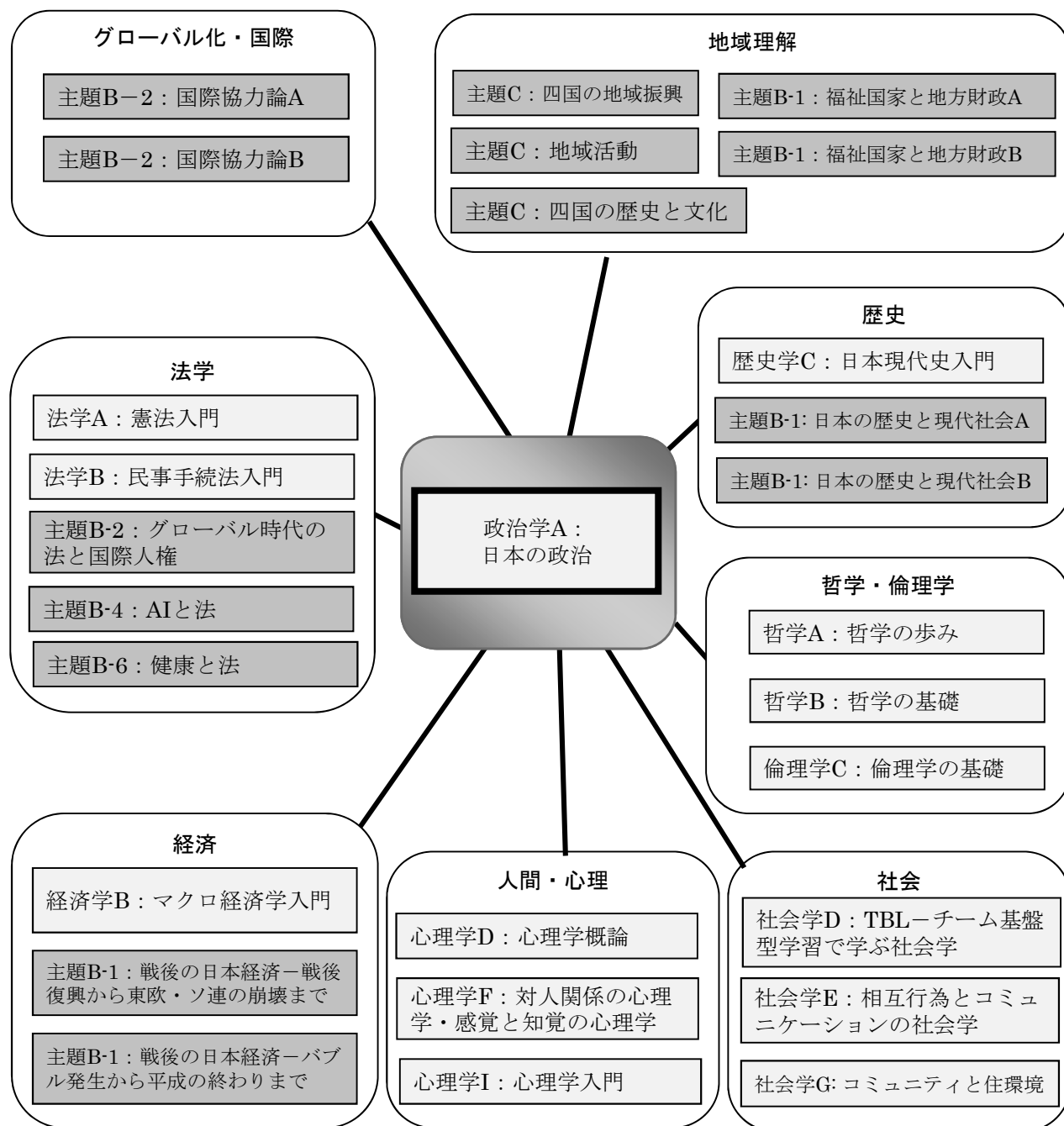
社会学 D：TBL—チーム基盤型学習で学ぶ社会学

主題 B-3：自己形成と他者をめぐる問題

主題 B-3：組織コミュニケーション

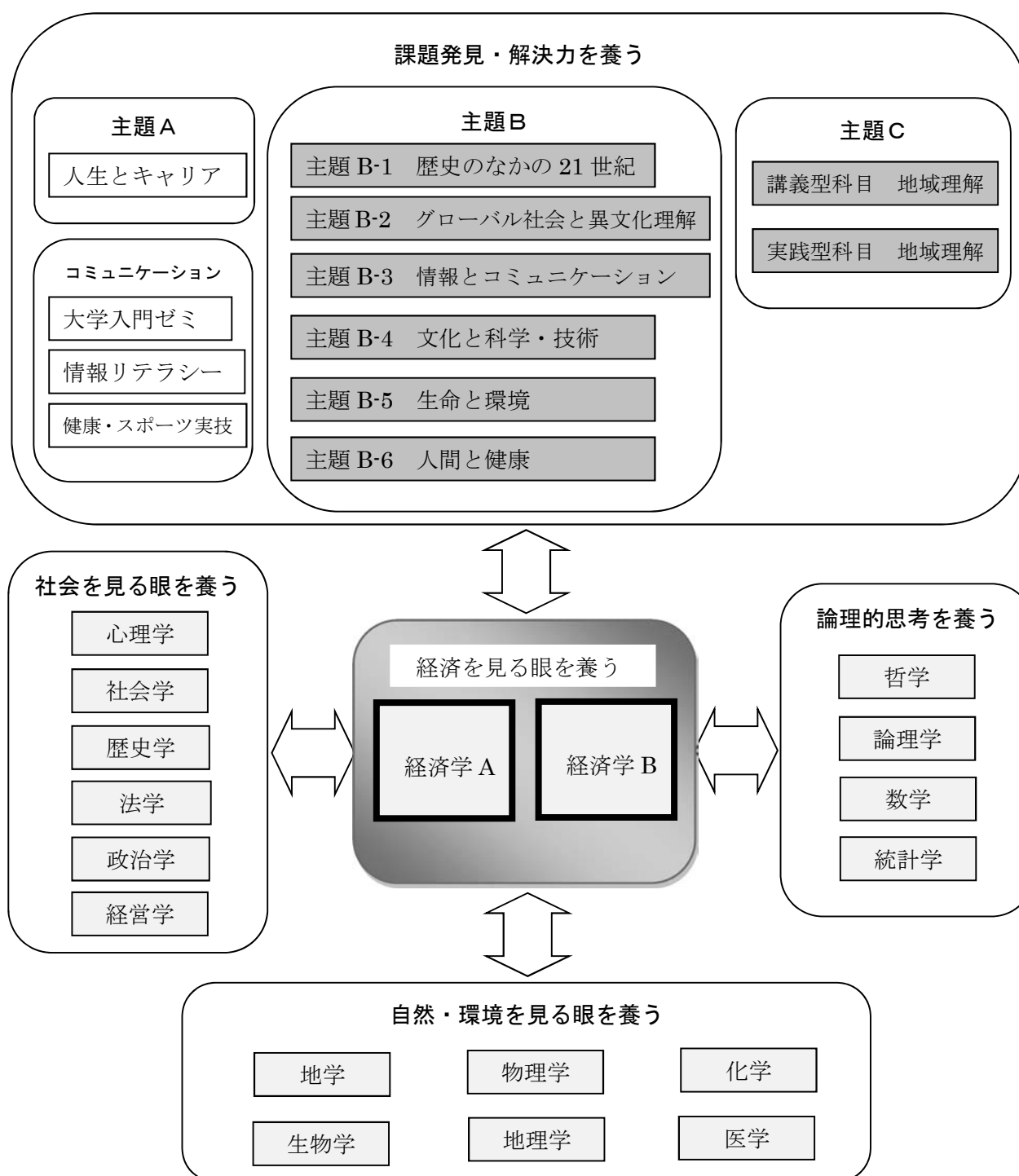
法学分野の概要：法とは、ひとが社会で活動するためのルールの一つで、道徳や宗教と異なり、国家の強制権力の行使と深く結びついているものです。法は、そのような強制力を背景に、一方で犯罪などの逸脱行為を抑止したり、紛争を解決したり、他方でひとの活動の自由を保障したり、利益を与えたりします。法学は、そのような法が過去・現在においてどうなっているのか、そして将来どうあるべきかを考える学問です。これは、同時に、社会がどうあるべきかを我々に問いかけます。したがって、法学に近しく感じられる政治学・経済学だけでなく、歴史学・倫理学・社会学の素養も必要です。また、法学は、議論・説得を通じてよりよい結論に向けて合意形成をめざす実践学です。その意味で、哲学・論理学などを背景とした論理的思考が求められると共に、豊かなコミュニケーション能力も必要となります。

全学共通科目個別相関図（政治学）



政治学分野の概要：政治は、社会における紛争や利害を調整して公的な意思決定を行い、社会全体を統合していく営みと理解できます。政治学は、こうした政治にまつわる現象とその本質について分析・研究する学問であり、古く古代ギリシャにさかのぼる学問といわれています。そこには、政治哲学から有権者の投票行動、国際政治から地方自治というように幅広い研究対象が含まれるとともに、その知的体系は哲学、歴史学、心理学、社会学、経済学、法学などとも交錯しています。そのうち、上記のコア科目「政治学A」は、おもに日本を事例として、現代政治学における主要なトピックについて学んでいきます。

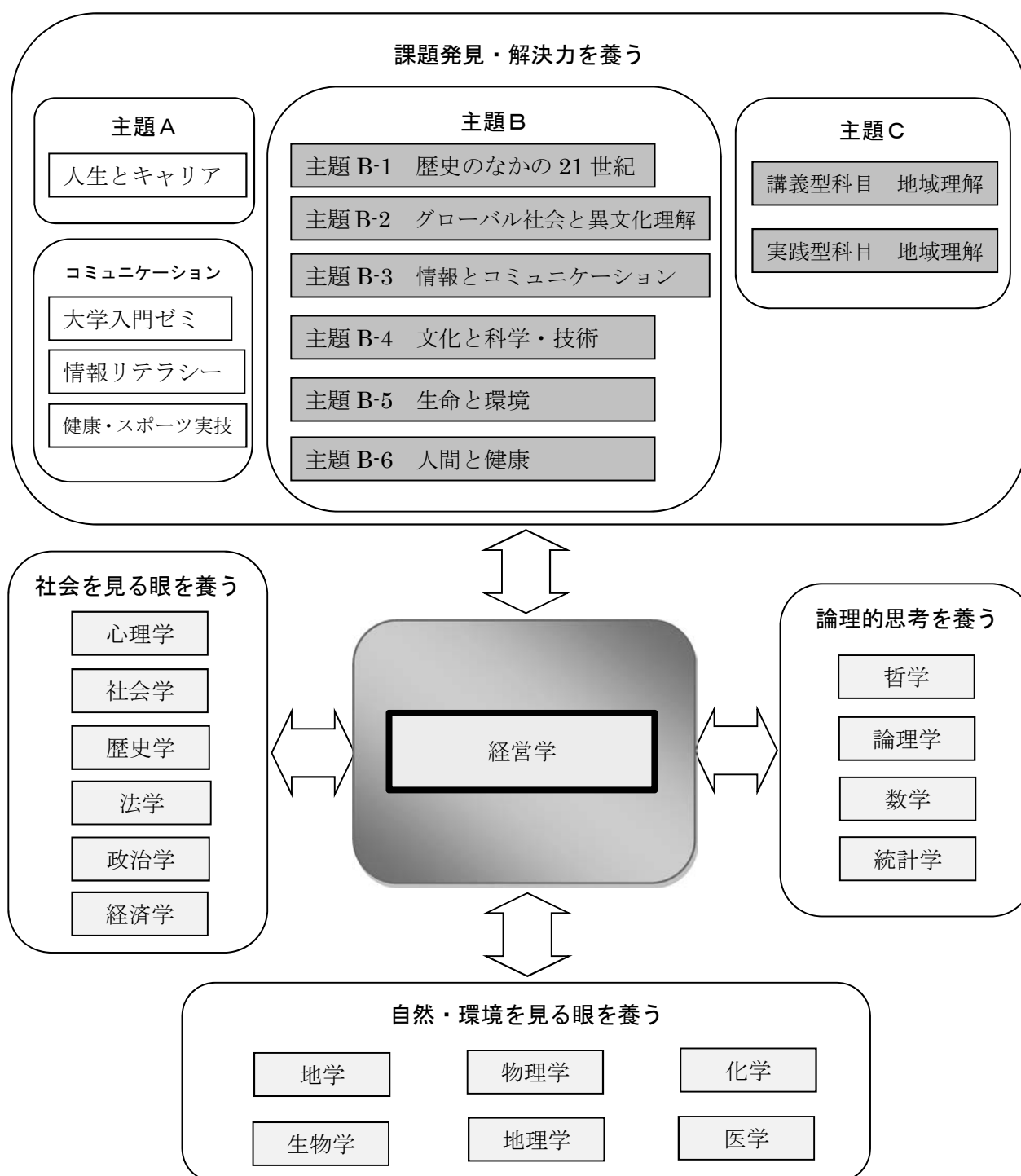
全学共通科目個別相関図（経済学）



経済学分野の概要：人間の経済活動は、技術や自然・環境に大きく左右され、また歴史の影響を受けつつ、様々な地域社会における文化・風土の中で育まれながら営まれています。それゆえ経済活動を十分に理解するためには他の学問分野とのつながりが非常に大切です、それによって洞察力も深まります。

経済学の学問分野には大きく分けてミクロ経済学とマクロ経済学があります。前者は消費者や企業といった経済主体の意思決定や市場経済の仕組みを学ぶのに対し、後者は、国民所得といった経済全体の現象を学びます。「経済学 A」は前者のミクロ経済学の入門を、「経済学 B」は後者のマクロ経済学の入門を扱います。2 つを隔年開講します。

全学共通科目個別相関図（経営学）



経営学分野の概要：経営学には、いろいろとらえ方があるが、ここでは経営学を「組織体を構成する人間、組織に関する諸課題を扱う学問分野」と定義する。この定義は、広義の経営学とよぶべきものであるが、狭義の経営学は企業という組織体を対象としている。企業は現代社会において重要で大きな影響力をもった組織体であり、経営学は企業という特定の組織体を対象とした領域学というとらえ方がある。経営学の対象となる企業の活動が多岐にわたる諸活動の総体であることから、他の学問分野とのつながりを意識し、学ぶことが不可欠であり、それによって洞察力も深まると言える。

全学共通科目個別相関図（数学）

物理学

物理学 A

物理学 B

物理学 D

物理学 P (実験)

主題科目

主題 B-3 情報数学の基礎

主題 B-3 コンピュータと教育

主題 B-3 高度情報化社会の歩き方

主題 B-3 現代暗号入門

数学 A

数学 B

数学 C

数学 D

数学 E

数学 F

化学

化学 A

化学 B

化学 D

化学 P (実験)

統計学 A

情報科学

論理学 A

経済学 A, B

数学分野の概要：

数学 A 「さまざまな数の概念」 初等整数論から始め、数概念の拡張過程の概括、有限体の基礎、そして簡単な暗号理論への応用までを学びます。

数学 B 「ゲーム理論」 中学生でも分かるレベルの政治・経済現象への応用例を通して、政治分析や経済分析に不可欠な〈非協力ゲーム理論〉の考え方を学んで行きます。

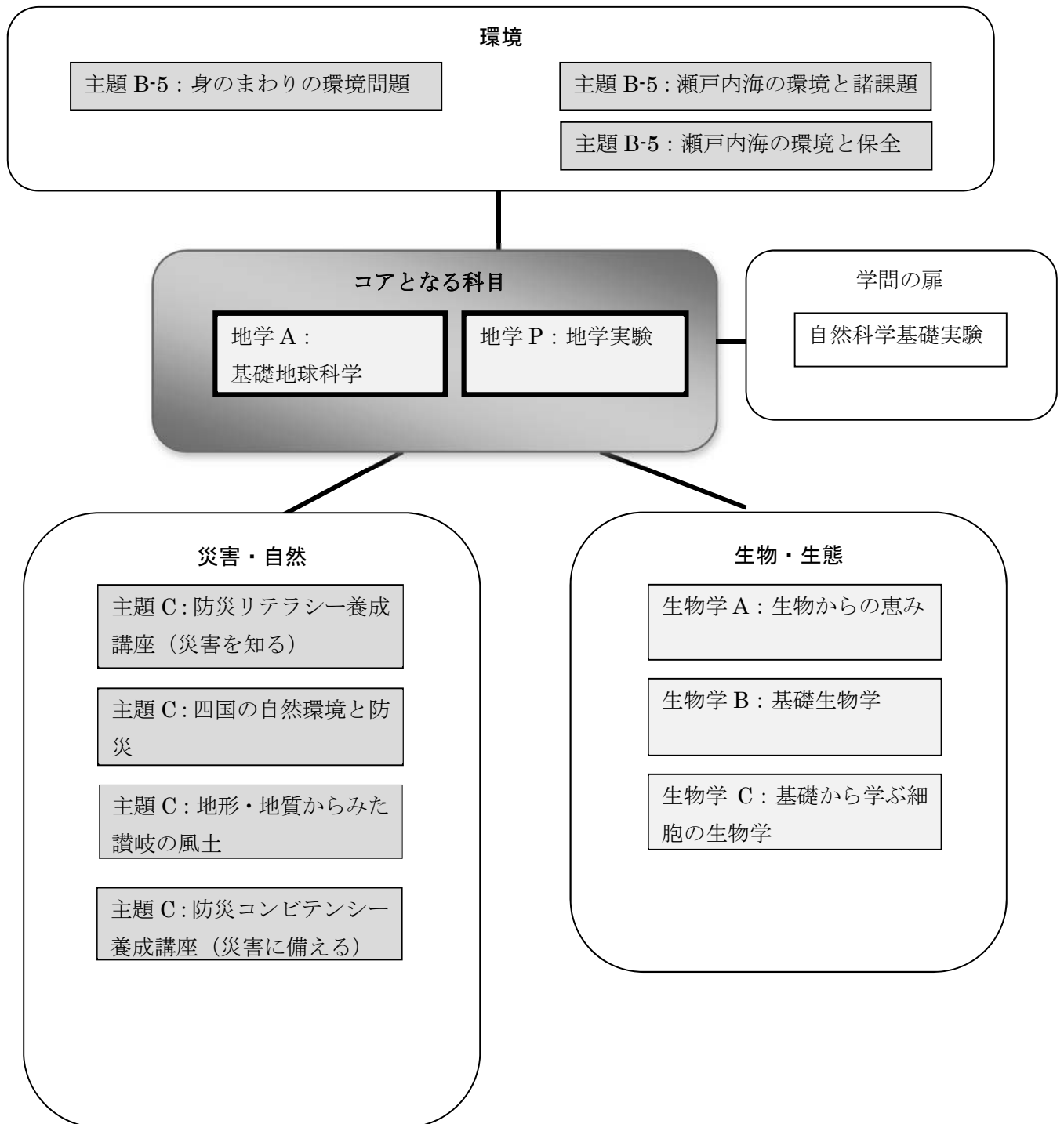
数学 C 「微分積分」 微分と積分の基礎を学びます。主として創造工学部 1 年生向けの科目です。

数学 D 「線形代数」 線形代数(ベクトルと行列)の基礎を学びます。主として創造工学部 1 年生向けの科目です。

数学 E 「微分方程式論調速成コース」 自然科学や工学の多くの領域で登場する微分方程式の具体的な計算を通し、数学の本質的部分を理解し論理的思考能力を養います。

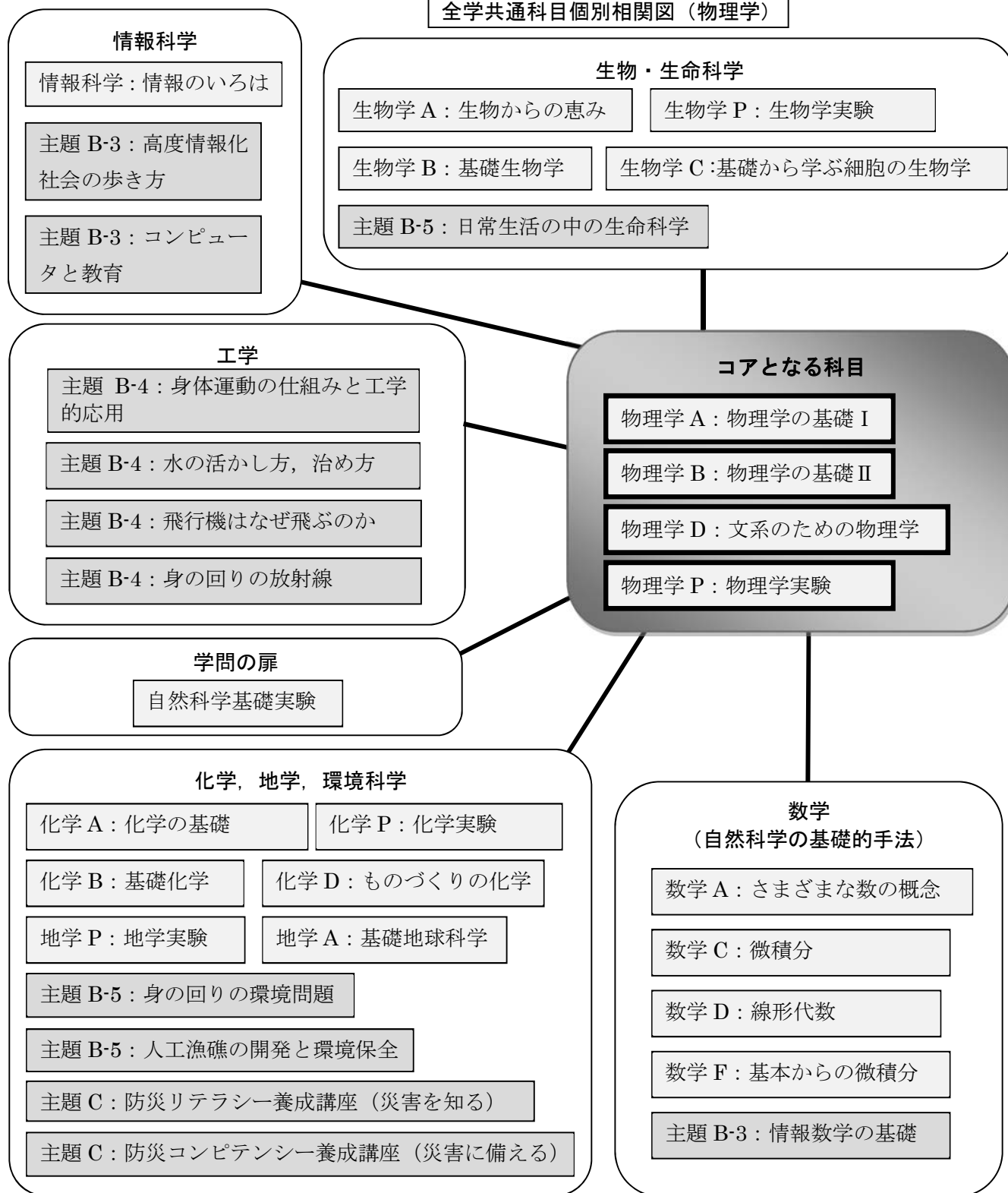
数学 F 「基本からの微積分」 高等学校で数学Ⅲや数学 C を未履修な学生に対して、微分と積分の初歩から解説します。

全学共通科目個別相関図（地学）



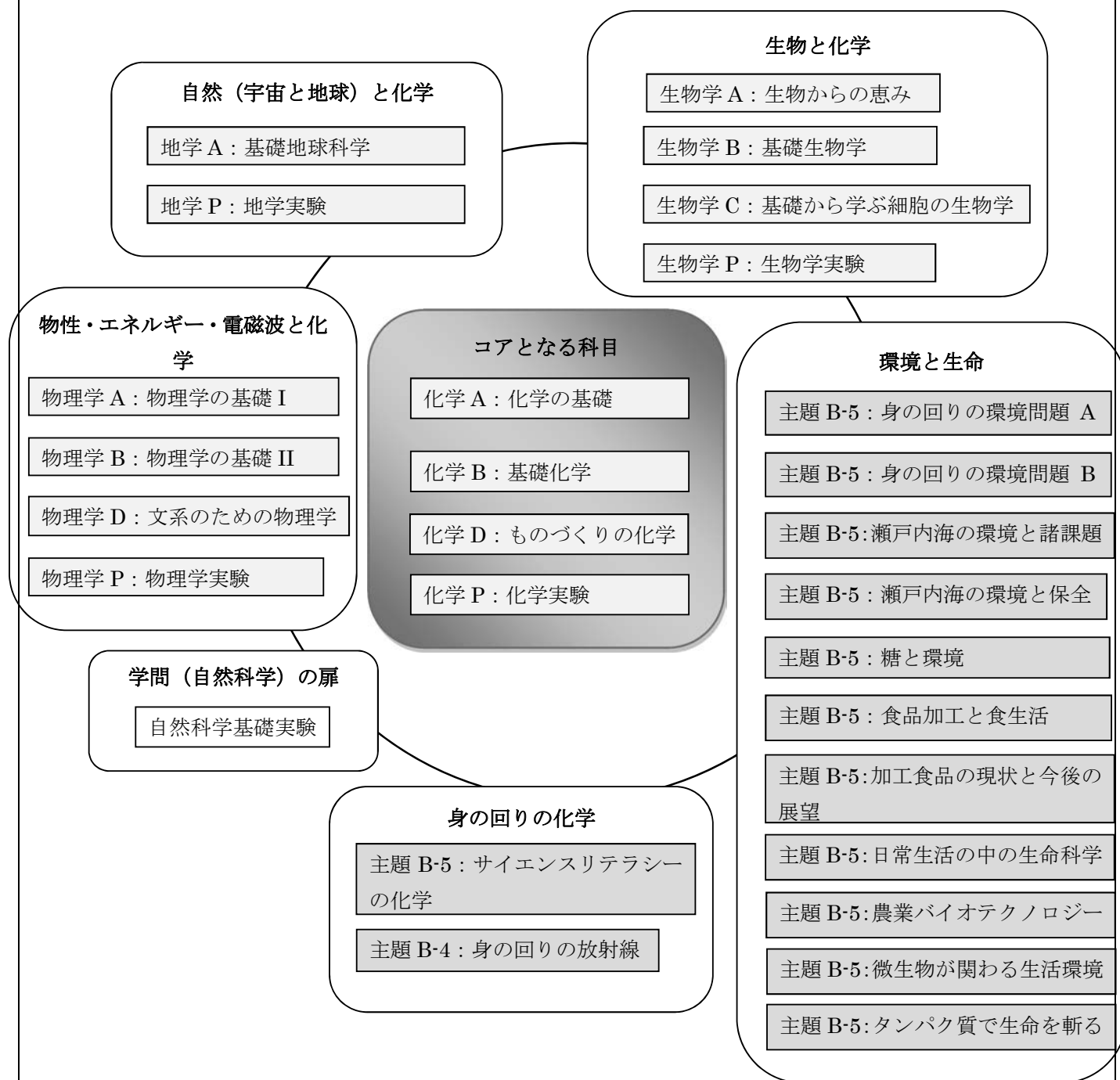
地学分野の概要：地球科学は、地球や生命の誕生から進化、現在の地球上で起きている諸現象、宇宙と地球の相互作用などを理解・説明する学問です。地球科学には、天文学、地質学、気象学など様々な領域があります。上記のコア科目のうち、「地学A」、「地学P」では、地球科学の基礎を幅広く学習します。

全学共通科目個別相関図（物理学）



物理学科目領域の概要：物理学は応用数学であり、自然現象をモデル化（数式化）して解く解析手法について学ぶ学問である。そのため、まずツールとして必要な数学的知識を必要とする。また、広く自然現象を取り扱うことから、例えば、情報・通信分野での電気電子回路・電磁気学・光学など、生物系での生体力学など、化学系での原子・分子の動力学など、他の理科科目において必要となる学問である。

全学共通科目個別相関図（化学）



化学科目領域の概要：化学は物質の構造・性質・変化・相互作用について研究する自然科学の一分野であり、他の自然科学 3 分野（物理学、地学、生物学）と密接な関係があります。上記コア科目では、学部の専門科目を学ぶうえで必要な化学の基礎を学びます。また、上記関連科目では、化学が私たちの生活と社会にどのように関わっているかを学ぶことができます。さらに、生命と環境を理解するには化学が欠かせないことを知ります。

全学共通科目個別相関図（生物学）

バイオテクノロジー

主題 B-4：細胞と遺伝子の科学史
 主題 B-4：植物バイオテクノロジーの展開
 主題 B-5：植物科学入門
 主題 B-5：日常生活の中の生命科学
 主題 B-5：農業バイオテクノロジー

化学

化学 A：化学の基礎
 化学 B：基礎化学
 化学 D：ものづくりの化学
 化学 P：化学実験

主題 B-5：食品加工と食生活

生物学 B：基礎生物学

生物学 C：基礎から学ぶ細胞の生物学

＜野外実習、実験を含む授業＞

生物学 A：生物からの恵み

生物学 P：生物学実験

環境と生命

地学 A：基礎地球科学

歴史学 E：環境史-歴史学の新たな展開

主題 B-5：糖と環境

主題 B-5：生物多様性を考える

主題 B-5：微生物が関わる生活環境

主題 B-5：瀬戸内海の環境と諸課題

主題 B-5：瀬戸内海の環境と保全

主題 B-5：知プラe科目 タンパク質で
生命を斬る

主題 B-5：知プラe科目 昆虫と環境

生活と健康

医学：医学

主題 B-5：加工食品の現状と今後の展望

主題 B-6：微生物と健康との関わり

主題 B-6：人間と健康を考える生理学

主題 B-6：からだのしくみと機能の調節

社会学と心理学

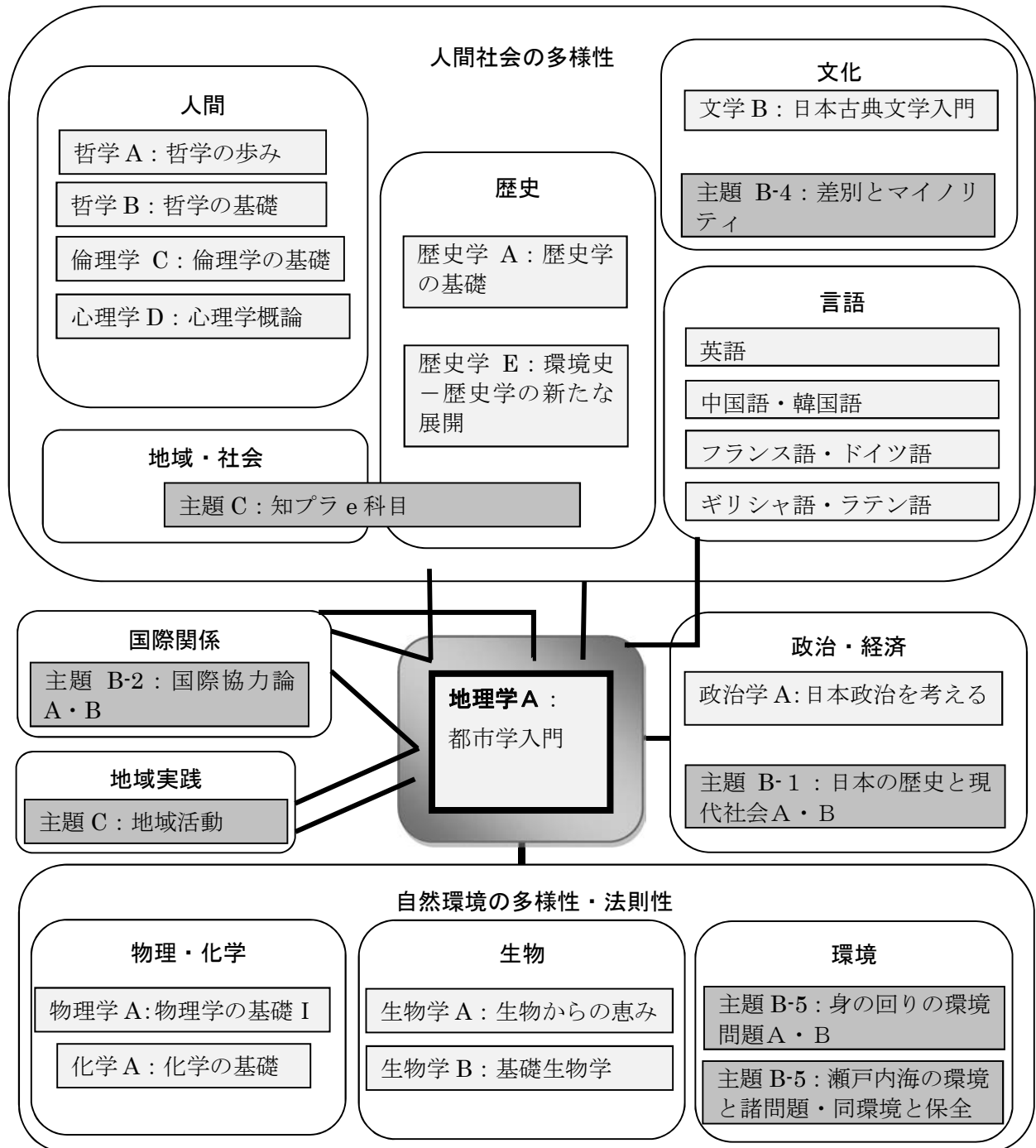
心理学 D：心理学概論

社会学 E：相互行為とコミュニケーションの社会学

書物との出会い-学問することの喜びロ：男と女

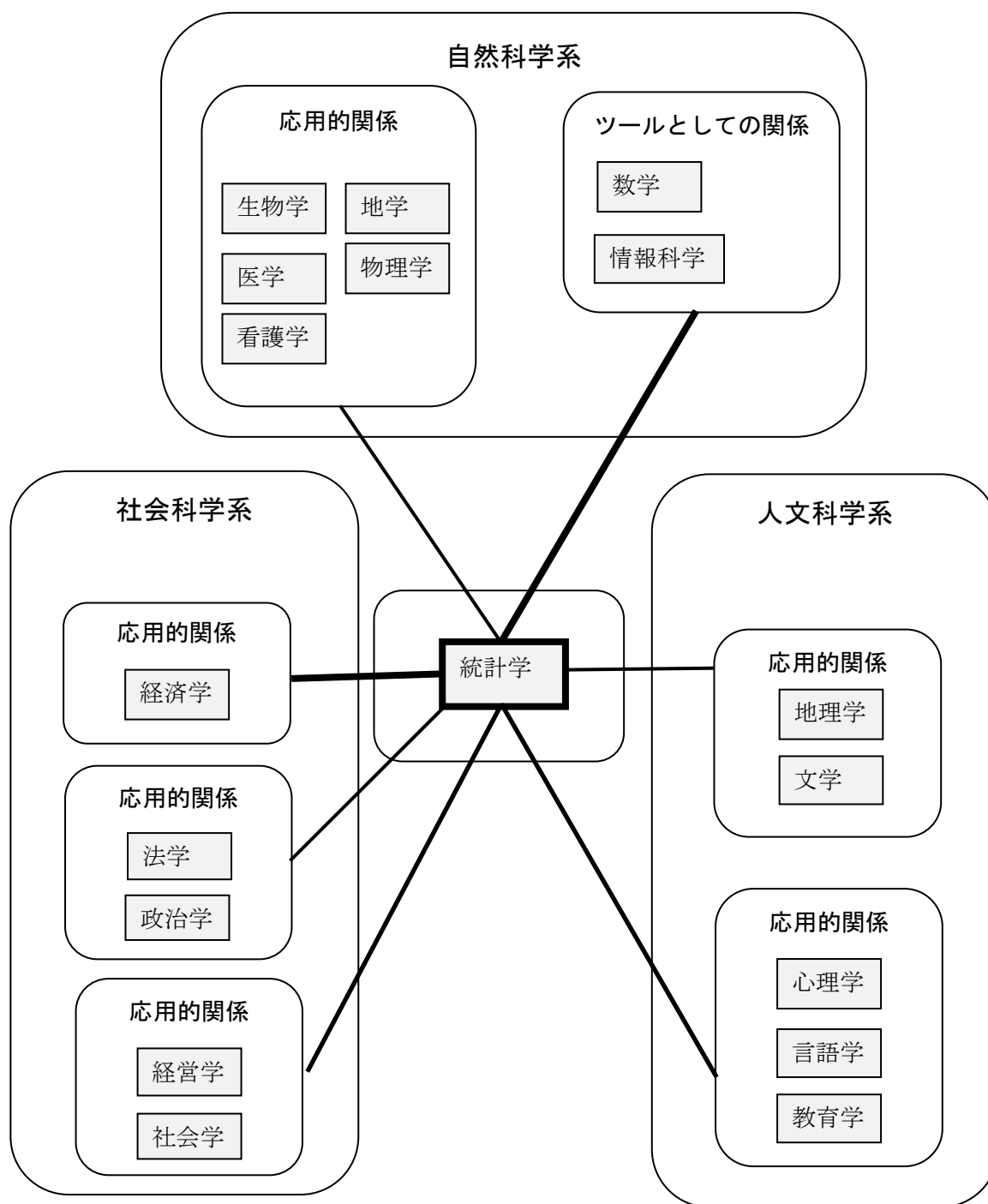
生物学分野の概要：その昔、生物学は博物学とほぼ同義でありました。しかし19世紀以降の物理学と化学の発展がやがてDNAの分子構造の解明(1953年)をもたらし生物学は変貌して行きます。DNA-タンパク質-表現型の関係が理解されると、それまで神秘のベールに覆われていた遺伝や発生など、あらゆる生命現象が究極的には分子レベルで解明できるはずだ、という確信が多くの研究者の心に芽生えました。今日、基礎生物学分野のみならず、疾病、農業、食品、環境などはもちろん、我々の心を対象とする研究分野にまで分子レベルの理解とそれに基づく問題解決法が求められつつあります。そういう分野の成果や新たな技術は、我々の生活、健康観、社会環境を現在進行形で変化させ、法律や倫理観にも変更を迫ろうとしています。現代の生物学は21世紀を生きる上での必修科目といえるでしょう。上記の講義群のうちコア科目と化学は基礎知識を提供し(生物学 A, Pは野外実習や実験を含む)、周辺科目は応用-実用編として位置づけられます。生物学を学ばれる皆さんには基礎と応用、両面の知識と理解を深めてもらいたいと思います。自分の興味を引くタイトルや、関心のある用語(例えば本文中の下線参照)を辿りながらシラバスを読めば自ずと履修したい科目が見いだせるはずです。

全学共通科目個別相関図（地理学）



地理学分野の概要：地理学は、「古くて新しい学問」と言われます。その理由は、遠くギリシャ・ローマ時代にすでに地理学的な考察が始まり、そして現在も小学校から大学に至るまで「地理」を冠する授業科目（分野）が存在することにあります。地理学は、地球表面上の自然環境と人間活動の特徴を、空間的・地域的視点に立脚して解明することを目標としています。大きく、自然環境の地域性を扱う自然地理学、人間社会の地域性を扱う人文地理学、総合的な地域像の構築を目指す地誌学の3分野から成ります。具体的には、さまざまな事象がどのように存在するのか、ある事象がなぜある地域に存在するのか、他の事象とどのような関係にあるのか、それらが歴史的にどのように変化してきたのか、といった観点で考察が行われてきました。

全学共通科目個別相関図（統計学）



統計学科目領域の概要：統計学は他の学問領域との親和性が高く、基本的にデータを扱う学問であればどの分野とも密接な接点を有しています。自然科学系はもちろんのこと、社会科学系や、一見関係ないような人文系の学問においても統計学は有益な学問として利用価値は高いものと言えます。ただ、学生には理解することが多少難解だと感じる部分があるようで、学生によっては数学の一分野とでも思っているかもしれません。もちろん、数学や情報処理など継りの強い分野はあるのですが、データを扱う上で多くの分野の学生に役立つ分野と言えます。最近ではコンピュータの発達とともにその存在が身近なものとなり、統計学も他の学問領域とに関係ばかりでなく生活面でも身近な存在になりつつあります。

主題科目

主題B-3「情報とコミュニケーション」

論理的思考
コミュニケーション
情報数学
計算機科学
情報モラル
教育支援システム
インターネット
高度情報化社会

主題B-4「文化と科学・技術」

知財管理
インターネット
デジタルコンテンツ
デザイン・ブランドの保護
こころの科学

主題B-6「人間と健康」

脳の機能

主題C講義型科目「地域理解」

メディアによる地域振興
防災

学問基礎科目

書物との出会い

メディアと書物

哲学

論理的推論、チューリングテスト

論理学

論理、非形式論理、意味論

心理学

認知、記憶、脳と知覚など

言語学

言語、文法、音韻

社会学

コミュニケーション、メディア

政治学

世論とマスメディア

経済学

ゲーム理論

数学

ゲーム理論、グラフ

統計学

統計・確率

情報科学

知覚、認知、感覚、情報量など

情報リテラシー

コンピュータ・インターネットの基礎知識、情報倫理とセキュリティ
情報検索・文献検索、コンピュータ・インターネットの利活用

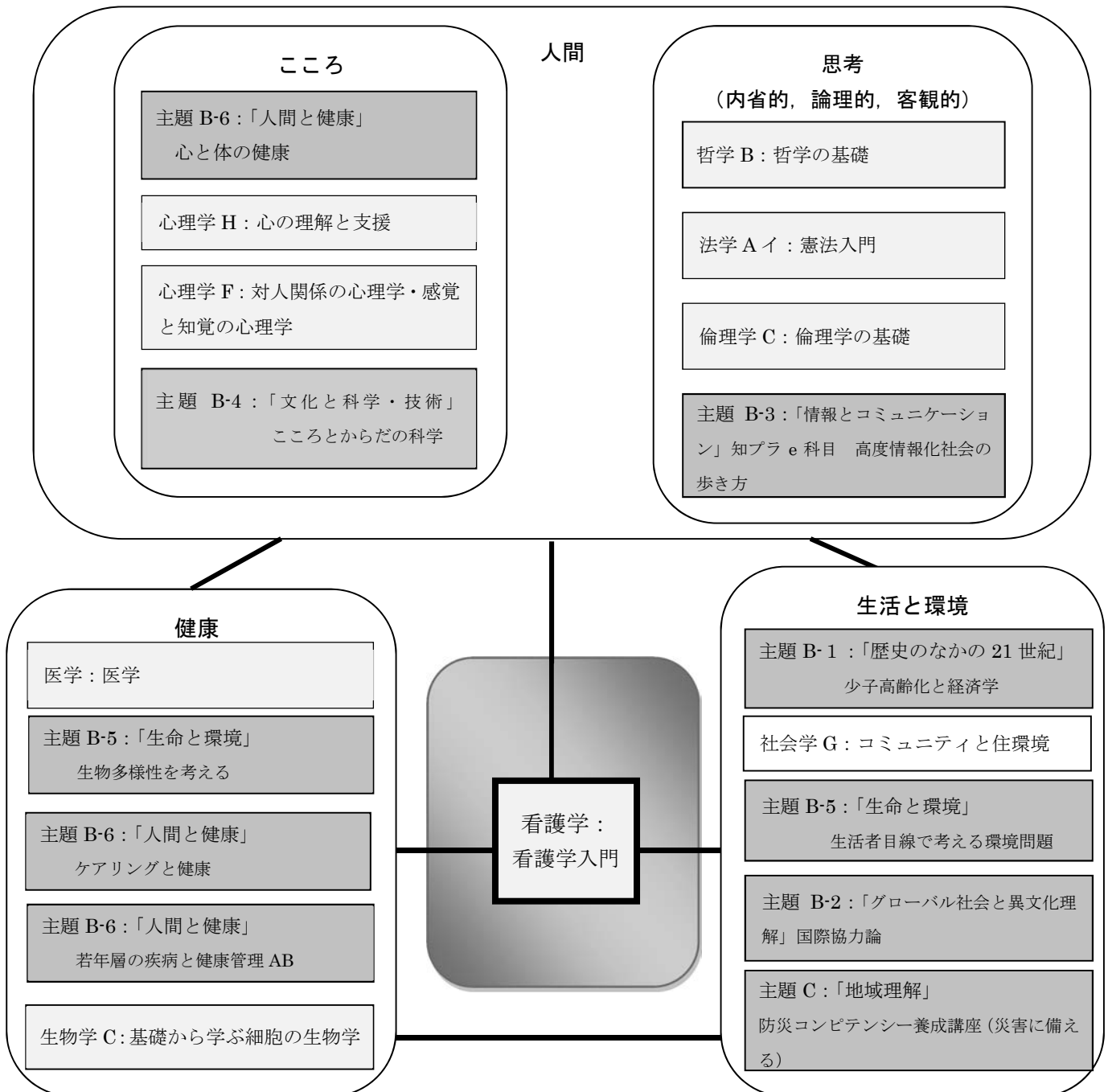
情報科学分野の概要：現代の科学技術の柱は、物質、エネルギー、情報であると言われています。「情報科学」は、その柱の一つである「情報」に関する学問分野です。情報科学は広い領域に展開する学問になりますが、これをどう学んでいくのか説明するのはいささか難しいと考えます。ここでは全学共通科目の観点から、専門的になりすぎず、しかし、的を外さないスタンスで、香川大学で履修できる科目の中で情報科学をいかに学ぶか少しだけアドバイスしたいと思います。まず、香川大学の全ての学生は情報リテラシーを必修科目として履修しなければなりません。情報リテラシーで学ぶ内容には、情報科学に関する内容が多く含まれています。また、主題科目や学問基礎科目にも関連する内容が多少の違いはありますが含まれています。まずは、情報リテラシー科目をベースとして、興味を持った内容（あるいはそれに関連する内容）について、相関図を参考に探して勉強いただければと思います。あまり、厳密に考えず、気楽な気持ちで、そして、いろいろな視点で「情報って何だろう」と考えてみてください。

全学共通科目個別相関図（医学）



医学分野の概要：医学は、健康な生命体を基本として、疾病の原因と疾病に罹患した時の生命体の変化、そして疾病の診断とその治療という一連の流れを含んでいる。疾病の発生には感染症や栄養状態、生活習慣（食事内容や運動不足）等の要因が関与するが、さらに心理状態や社会経済的状況（災害を含む）もその発症・増悪因子として見逃せないものである。「医学」ではこのうち臨床医学を採り上げ、内科や外科のみならず、幅広い診療科の医師が様々な疾患の概説を行うと共に、現時点でそれぞれの診療科が対応できる先端医療についても触れる。これらの疾病理解により、疾患の早期発見・治療のみならず、疾患の発生活予防についても理解を深め実践する。

全学共通科目個別相関図（看護学）



看護学分野の概要：看護は、個人や家族、地域社会が健康で、できる限り質の高い生活ができることを目的としています。また看護とは、あらゆる場であらゆる年代の個人および家族、集団、コミュニティを対象に、対象がどのような健康状態であっても、独自にまたは他と協働して行われるケアの総体です。看護には、健康増進および疾病予防、病気や障害を有する人々あるいは死に臨む人々のケアが含まれます。看護を理解するためには、影響要因としての、人間、健康、生活と環境について理解することが望まれます。

「看護学」では、看護について幅広い知識を概説するとともに、各看護領域における看護の特徴をわかりやすく紹介します。

到達目標は、地域社会における看護の役割について述べることができる、各看護領域における看護の特徴について理解することができる、各看護領域における看護の現状と課題について理解することができるとしています。